



かみねおもしろズーサロン開催される

少しずつ春めいてきましたが、平成25年の2月は毎週のようにイベントを開催しました。1年の中でも一番お客様が少なくなる時期だからこそこの企画です。平成25年始めて行うイベントもあり、おかげさまで例年より多くの来園者を迎えることができました。なかでも、「第1回かみね・おもしろズーサロン」は初の試みでどれぐらいの人が集まるかまったく予想がつかなかったのですが、フタをあけてみると、狭い会場にほぼ満席の状態です。とりあえずホッとしました。



第1回ZOOサロン開会

これまで、動物園のイベントは対象を子供さん向けとしたものが定番でしたが、動物園や動物を取り巻く状況などをより幅広い人に知ってもらうには講演会的なものも必要かと考えていました。そこへ、エンリッチメント大賞受賞の知らせです。この機会を逃さず一気に計画を進めることとしました。今回は「エンリッチメントを考える～動物たちの幸せとは」というちょっと固いテーマですが、動物園に携わる者としては避けて通ることのできないテーマだと思います。講師には動物園ライターとしてご活躍中の森由民氏をお招きし、各地の園での取り組みを交えながらお話しいただきました。その後、飼育員、獣医が座談会形式で動物たちとの関わり方などを紹介し、園内ツアーで締めくくりました。



森先生の基調講話



森先生による対話形式の講話

森先生の講話は、動物への視点と来園者からの視点がクロスするような各地の園での取り組みを、お客様と対話するような感じで紹介され、あっという間に時間が過ぎていきました。当園に来られるお客様は、なかなか全国の動物園をまわるというのも難しいと思われませんが、始めて聞く話に、みなさん目からウロコがポロポロ落ちていました。ここで紹介できないのが残念なくらいです。

また、当園でのチンパンジー舎での取り組みや、コーディネーターのさかいともこ氏による座談会形式での飼育員や獣医による具体的な話にも興味津々で聞いてられました。



チンパンジー舎での取り組み紹介



座談会



座談会出席者とコーディネーターのさかい氏（右）



客席に入って

野生における動物たちと動物園での動物たちとの決定的な違いは、採餌や健康管理の心配はないものの、囲われた空間の中で暮らしていく、ということです。動物たちを見て楽しんだり、癒されたりすることも十分動物園を楽しむ理由ですが、その向こうに見える本来の生息環境や、動物たちの数が減っていく実態などを学んでいくことも動物園の大きな役割の一つです。動物たちを通して何を伝えるか。

ズーラシアの園長だった故増井光子さんが自著の中で、「動物園の動物たちは野生からのメッセージを伝える大使だ」というようなことを書いておられましたが、まさにその通りだと思います。その大切な役割を担った大使を囲われた空間で飼っていく以上、退屈させずストレスを少しでも軽減させる努力をすることは、飼育員のみならず動物園を運営する者として当然のことだと考えます。



水浴びするゾウたち

今回のサロン開催をきっかけに、これからも多くの来園者にこのような動物園の取り組みについて伝えていきたいと思いますが、そのためにも、まずは動物たちを、そして動物園を少しでも楽しんでもらえるようにしていきたいと思っています。

講演終了後の園内ツアーで、皆さんの目は生き生きとしていました。

なお、今回の企画にご協力いただいた森由民氏ならびにさかいともこ氏にこの場を借りてお礼申し上げます。



盛況だった園内ツアー

 [関連資料：かみねおもしろズーサロン（PDF形式：698KB）](#)